


安全装置

● 異常が生じたとき、自動的に消火する装置です。

- 安全装置が作動した場合、運転スイッチを「切」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ● 作動の原因	チェックモード	処置の方法
対震自動消火装置 ● 地震（震度5程度以上）のとき ● 強い振動や衝撃を受けたとき	02 (点滅)	ストーブの周囲やストーブの外れやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認し、再点火操作してください。
不完全燃焼防止装置 ● 換気不良、手入れ不足、その他の異常により、バーナ部への空気の供給が不足したとき  ● 不完全燃焼防止装置が作動する前に、換気ランプが点灯して作動を予告します。換気ランプが点灯しましたら、早めに換気してください。	35 (点滅)	給気フィルタの掃除及び部屋の換気をし、ストーブが冷えてから、再点火操作してください。 不完全燃焼防止装置は、あくまでも不完全燃焼による危険を防止するためのものであり、使用中は必ず1時間に1～2回換気して新鮮な空気を補給してください。
点火安全装置 ● 点火不良のとき	03 (点滅)	油タンク内のごみや水混入などの原因を取り除いてから、再点火操作してください。 ● 再びチェックモードが表示される場合には、お買い求めの販売店又は最寄りのサンポット支店・営業所へご連絡ください。
燃焼制御装置 ● 途中で火が消えたとき ● 炎が小さくなったとき	05 (点滅)	
停電安全装置 ● 停電したとき ● 電源プラグが抜けたとき	00 (点滅)	通電後、ストーブが冷えてから再点火操作してください。
過熱防止装置 ● 対流用送風機が故障したり、対流用送風機の周囲にほこりがたまり高温になったとき	07 (点滅)	対流用送風機の周囲、天板側面の掃除や障害物などの原因を取り除き、ストーブが冷えてから再点火操作してください。冷える前に再点火すると、油が出なかったり、火がついてもすぐ消えます。

その他の装置

- 作動した場合、自動的に消火します。
- 運転スイッチを「切」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

装置のなまえ ● 作動の原因	チェックモード	処置の方法
逆火検出装置 ● バーナ温度が異常に上昇したとき	25 (点滅)	ストーブが冷えるのをまって再点火操作をしてください。同じ状態を繰り返すときは、お買い求めの販売店にご相談ください。
油切れ検知装置 ● 燃料がなくなったとき	10 (点滅)	運転ランプが消え送風機が停止してから給油してください。